

事業報告

I 総括

一般財団法人稲沢市文化振興財団は、稲沢市民会館、稲沢市勤労福祉会館及び稲沢市総合体育館について、平成31年4月1日から5年間の指定管理者の指定を受け、財団としての実質的な事業活動を開始しました。

財団の設立目的（市民の文化・芸術活動の振興及び生涯学習の推進に資する事業を行い、もって個性豊かな魅力ある市民文化の創造と生涯学ぶことができる文化的なまちづくりに寄与すること）の実現に向け、文化事業のより一層の充実を図るとともに、次世代を担う子供たちの教育発表の場の提供並びにさまざまな文化活動に携わる市民の方々の交流の拡大を目指した事業展開に努めてまいりました。

さらに、常に施設を利用される方々の目線に立ち、安全で快適な施設の維持・管理、サービスの提供に努めてまいりました。

しかし、全国規模の新型コロナウイルス蔓延の影響は大きく、感染防止対策のため、財団主催の文化事業及び一般利用によるイベント等の中止に伴い、事業収益は減収となりました。

II 実施事業の概要

1 文化事業の実施

財団としての文化事業実施の初年度であり、稲沢市民会館を象徴する事業である「NHK全国学校音楽コンクール」や「合唱コンクール」をはじめ、これまでの文化事業を基礎としながらも、事業全体の内容の見直しを図りながら、より充実した事業実施に取り組んできました。

また、新たな取り組みとして、稲沢市勤労福祉会館においては、生涯学習を一層推進するため、ここを拠点として活動する「いなっピーレインボーアンサンブル」を立ち上げたほか、愛知文教女子短期大学との協働事業として「サマーカレッジ」を展開しました。

さらに、これまで培ってきた財団の持つノウハウを生かすため、稲沢市の主催事業である「敬老式」の運営を受託することで、財団の存在意義を示しました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の蔓延が財団の文化事業実施にも大きく影響し、令和2年3月に実施を予定しておりました「稲沢版！よしもとふるさと劇団」をはじめ「ワンコインコンサートスペシャル～音楽三昧～」「音楽家の集い vol. 77」など、財団主催の6事業については、不本意ながら中止を余儀なくされる状況となりました。

2 施設の管理運営

稲沢市民会館、稲沢市勤労福祉会館及び稲沢市総合体育館の指定管理者として、各施設の管理運営を行いました。

施設の管理運営にあたり、市民サービスや利用者の利便性の向上に努めてまいりましたが、令和2年2月下旬以降、新型コロナウイルスの影響により、施設の利用中止が増え、各施設とも利用件数等は前年度実績を下回りました。

※前年度は稲沢市公共施設管理協会が運営

3 令和2年度文化事業の計画策定

令和2年度の文化事業につきましては、大きくは「市民会館文化事業」、「勤労福祉会館事業」、「受託事業」の3区分で計画しました。

特に、市民会館文化事業は、既に象徴的な催事である合唱コンクールを筆頭に、これまでの事業を踏襲しながらも、当財団が担うべき重要な役割である「参加・体験型の企画により、自ら創造できる人材の育成」を目指した事業を企画するとともに、この分野を更に発展させるため、「収益性」をより大きく備えた企画（娯楽事業）を展開することにより、事業全体のコストバランスを整えるよう計画を策定しました。

また、一般社団法人セントラル愛知交響楽団との協力に関する包括連携協定の実効性をより高めるため、青少年活動支援企画として、稲沢市内の中学校吹奏楽部にプロの指導者を派遣する事業も計画しました。

さらに、勤労福祉会館においても、参加・体験型の事業を実施し、市域全体において、文化振興を進めてまいります。

Ⅲ 役員に関する事項

1 監事の辞任

氏名	辞任年月日	備考
鵜飼裕之	平成31年3月31日	稲沢市を定年退職のため辞任

2 監事の選任

氏名	就任年月日	備考
竹本昌弘	令和元年6月28日	稲沢市会計管理者

※任期は、前任者の残任期間（令和2年6月定時評議員会の終結の時まで）